

後援会ニュース「しおかぜ」は街づくりのコミュニティ紙として皆さんの暖かいご支援をお願いします。ご意見をお聞かせください。



# しおかぜ

日本共産党浦安市東部後援会  
News

第80号

2021年 3月10日  
編集責任者 元木計文  
047-355-8526  
部内資料

コロナから県民のいのちと暮らしを守る県政へ!

## 「かなみつ理恵」候補を千葉県知事に

【3月21日(日)投開票】



【2月23日 新浦安駅頭宣伝】

コロナ禍の中で多くの非正規労働者、女性が困難に陥っています。私自身も非正規雇用で働き続けてきたからこそ、その思いを受け止めることができます。ジェンダー平等を大切に考え、夫婦別性での結婚も30年近く続けています。弱い立場の人を最優先に、憲法が保証する人権を守り、災害からの復旧と根本的なコロナ対策実現のために全力を尽くします。



**かなみつ理恵・プロフィール**

1963年、和歌山県生まれ。立命館大学卒業。お茶の水女子大学大学院で平安文学を研究。大学受験予備校で古文講師を28年。1980年代後半より「夫婦別性選択制をすすめる会」メンバー。1995年から千葉県在住。2015年「安保関連法に反対するママの会@ちば」の結成メンバー。「安保法制違憲訴訟・女の会」原告の一人。家族:夫と社会人の娘一人。

次の菅首相。コロナの蔓延も重なり、いささかの期待をもって迎えましたが、いきなり見事に裏切られました。日本学術会議6名の任命拒否という強権ぶりを発揮しました。日本の良心とも言うべき文系学者の方たちです。大きな失望とともに、自公政権ならさもありなんと、心の底から怒りがわいてきました。

日本の政治のシステムが議院内閣制をとっている限り、いくら首をすげ替えても、腐った根っ子は同じです。権力争いの機を見るに敏なだけの人物に、良い政治を望むのは無理でしょう。せめて、もうこれ以上日本人の心根と文化を壊さないように祈るばかりです。

しかし、いまだ勢いの衰えそうもないコロナの問題が目の前にあります。1年以上も対応可能な期間がありながら、医療への不手際は見過ごすことはできません。救えることのできた命があったかもしれないからです。

<<< 日本共産党は「かなみつ理恵」候補を全力で応援します >>>

飾らずに、率直に述べたいと思います。

安倍前首相が、昨年9月やっと交代になりました。長きにわたる在任期間中、私ども国民に何を残してくれたのでしょうか。私にはきな臭いことだけしか思い浮かべることができません。そうそう、小さめの布マスクを配っていただきましたね。

それよりも何よりも、森・カケ・桜・検事等々、政治と国会を壟断(ろうだん)し続けてきたことばかり思い出されます。いかに多くの無駄なエネルギーを費やしてきたことでしょうか。桜にいたっては除夜の鐘の数以上の大ウソを本当にペラペラとつき続け、最後は秘書のせいにして辞職の後に逃げ切ろうとしているようです。



今はもうひとつの政治の季節になりました。千葉県知事選が行われようとしています。日本共産党は「かなみつ理恵」候補を全力で押し出し、秋までには行われる衆院選に臨みたいと思います。野党共闘により、政権交代をやらない限り日本の政治は変わりません。政治は練り上げた政策を国民に示し、それを誠実に実行していくものではないでしょうか。

相変わらず、首相がらみの醜聞政治劇場が上演されているようです。助演女優賞の奥方殿から、助演男優賞の長男殿に登場人物を変えて、世上かまびすしく報道されるようになりました。国会議員の被告、疑惑者は片手で数えきれません。もううんざりです。

21年3月 元木計文

孫のぬくもり

村上  
ますえ

ばあちゃん  
地震大じょうぶだった？

思いがけない孫の地震見舞い  
十年なるもんね あれから  
自分では記憶にもない孫のことば

私にとっては忘れることのできない

3・11

激しい揺れの中で一心に抱きしめていた

六か月の孫

その時のぬくもりを思いだす

荒れ狂った津波は

冷たい濁流の中に人々を呑み込んだ

親と子を引き放し

家族のぬくもりを伝え合うことも許さないで

幼稚園 小学校入学と

孫の成長の節目ごと

瓦礫の下で 真っ黒い濁流の中で

命を落とし 年をとることのない

あの子たちへの思いを込めて

私は語ってきた 震災の記憶を

あのとときの孫のぬくもり

いのちのぬくもりが

心の支えだとの思いを込めて



# 私の故郷自慢

No.12

《 私の故郷 新潟・旧「分水町」 》

越後平野のど真ん中。高い山は無いが近くには「良寛さん」で有名な「五合庵」のある「国上山」、その奥には越後一宮「弥彦神社」がある「弥彦山」が見える町。今では平成の大合併により「燕市」へ編入となりましたが、旧「分水町」が故郷です。町名の由来は越後平野を水害から守るため、信濃川の水を直接日本海に流す人工の川「大河津分水」からきています。

その昔、信濃川はひとたび豪雨となれば必ず氾濫をくり返し、越後平野



一帯に大水害をもたらす「暴れ川」でした。度重なる水害に悩まされてきた住民の永年の悲願と請願により、明治42年に「大河津分水路」の本格的な工事が始まり、13年の歳月と延べ1千万人の労力により完成しました。おかげで水害に悩まされることなく豊かな越後平野になりました。

この世紀の大事業の完成を記念して、住民が堤防に桜を植え始め約10kmにわたる大河津分水の桜並木が出来ました。今では「日本さくら名所百選」にも選ばれています。春にはその桜並木の下、



昭和の初めから行われている全国的に珍しい「おいらん道中」が行われます。県内外からの応募者の中から選ばれた「信濃太夫」「桜太夫」「分水太夫」の

3名の「おいらん役」が絢爛豪華な衣裳に身を包み、「手古舞」「新造」「かむろ」「舞妓」など総勢約70名の供を連れ、高さ15cmもの三枚歯黒塗りの高下駄を履き、独特の外八文字の歩き方を披露します。機会があつたらご覧になってはいかがでしょうか。

(入船 中村)

## ■■ 反原連が国会前集会 ■■

- 原発なくすまで声上げ続ける これからも -

首都圏反原発連合(反原連)は7日、「原発ゼロ☆国会前集会—原発事故から10年・福島とともに—」を開きました。活動休止前最後の国会前集会で「再稼働反対」「原発いらぬ」のプラカードを手にした市民と野党議員が参加し「これからも声をあげ続けよう」と訴えました。



【しんぶん赤旗 2021.3.8 版より】

## 2021年 浦安市長選挙にあたって

日本共産党浦安市委員会

浦安市長選挙が3月21日投開票で行われます。

日本共産党は、労働組合や女性団体など浦安市内の市民団体および個人によって構成されている「清潔公正な明るい浦安民主市政を作る会」の一員として候補者を擁立してきましたが、今回、擁立できない状況です。

これまで、国は、国民に「自己責任」をおし付ける一方で、大企業の利益優先をおし進めてきました。本来ゆとりが必要な福祉・医療・教育を削る「新自由主義」の政治が、今回の新型コロナウイルス感染危機に対していかに無力であり、危ういものかが明らかになりました。

コロナ感染拡大は収束せず、未だ、市民は緊張と不安、生活困窮の暮らしを余儀なくされています。安心して希望をもって暮らせるようにすることは、政治の責任です。

地方自治法第一条の二「地方公共団体は、住民の福祉の増進を図ることを基本とし」の本旨にのっとり、国が悪政をおし付けるなら、防波堤となって市民の生命、財産、福祉を守るための独自施策を推進し、福祉の向上、地域経済振興を最優先する「住民こそ主人公」の政治を行う市政となるよう日本共産党は力を尽くします。